

2015 年日本ベトナム共同鳥類標識調査報告
および 2016 年度速報

日本鳥類標識協会の海外遠征はベトナムで 5 か国目になり、初めての越冬域での調査である。日本国内では標識調査は盛んにおこなわれているが越冬域での回収例は少なく、日本国内で繁殖するおよび日本を通過する鳥類の越冬域解明のためにも有意義と思われる。また、ベトナム側からの要請もあり標識調査技術の指導および普及のために今回の調査は進められた。

期間：2015 年 12 月 1 日から 10 日 (調査は 2 日から 9 日)

調査地：12 月 2 日から 5 日 シャンツイ国立公園 (ハノイ南東 150 km の紅河デルタ地帯)

12 月 6 日から 9 日 バヴィ国立公園 (ハノイ西 50 km の亜熱帯雨林の森林公園)

日本側参加者：茂田良光(千葉県)、馬田勝義(長崎県)、磯清志(北海道)、今田吉孝(兵庫県)、小田谷嘉弥(千葉県)、小畑義之(兵庫県)、北沢宗大(北海道)、今野紀昭(神奈川県)、庄山守(沖縄県)、細谷麻美(宮城県)、細谷淳(宮城県)、山田真司(神奈川県)、小西広視(東京都) 計 13 人

ベトナム側参加者：Hong Van Thang(ハノイ国立大教授、Center for National Resources Management and Environmental Studies, CRES), Pham Viet Hung(CRES), Dang Dinh Throng(CRES), その他現地国立公園スタッフ多数

調査結果

シャンツイ国立公園の調査では新放鳥 88 羽、再捕獲 4 羽を含む 27 種を、バヴィ国立公園では新放鳥 66 羽、再捕獲 9 羽を含む 21 種を放鳥した。

シャンツイ国立公園では施設内のモクマオウの植林の林縁や草地に ATX (2 枚)、HTX (16 枚)、ポーランド製 9 m 網 (2 枚) を、エビの養殖池やマングローブ植林の土手等に夜間に CTX を張った。モクマオウの林縁ではカラアカハラ (10 羽、全体の 11.4%) やクロツグミ等の大型ツグミやムジセッカ (10 羽、11.4%) やキマユムシクイ等ムシクイ類が良く捕獲された。湿地環境ではオグロシギやツルシギ等が捕獲された。広大なマングローブ湿地環境で捕獲に最適な場所を見つけるのに苦労した。

バヴィ国立公園では亜熱帯雨林内の散策用トレイルや流れの弱い沢に、ATX (9 枚)、HTX (13 枚)、DTX (4 枚)、ポーランド製 9 m 網 (4 枚) を張った。また、ステーションにした小屋前の林にボウネットをいくつか設置しサンジャクやオレンジジツグミを狙った。マユグロムシクイ (9 羽、13.6%) を中心としたムシクイ類、フーケンアオヒタキ (9 羽、13.6%) やコンヒタキ (9 羽、13.6%) などの小型ツグミ類を幅広く捕獲し、日本との共通種も多かった。バヴィ地域では初記録となるカルストムシクイも捕獲された。

2016 年度の速報

今年は 11 月 27 日から 12 月 4 日までの日程。シャンツイ国立公園にて 11 月 28 日から 12 月 3 日まで調査実施。